

第175回 中小企業景況調査報告書 (2024年1-3月期) 〈製造業編〉

※DIとは…

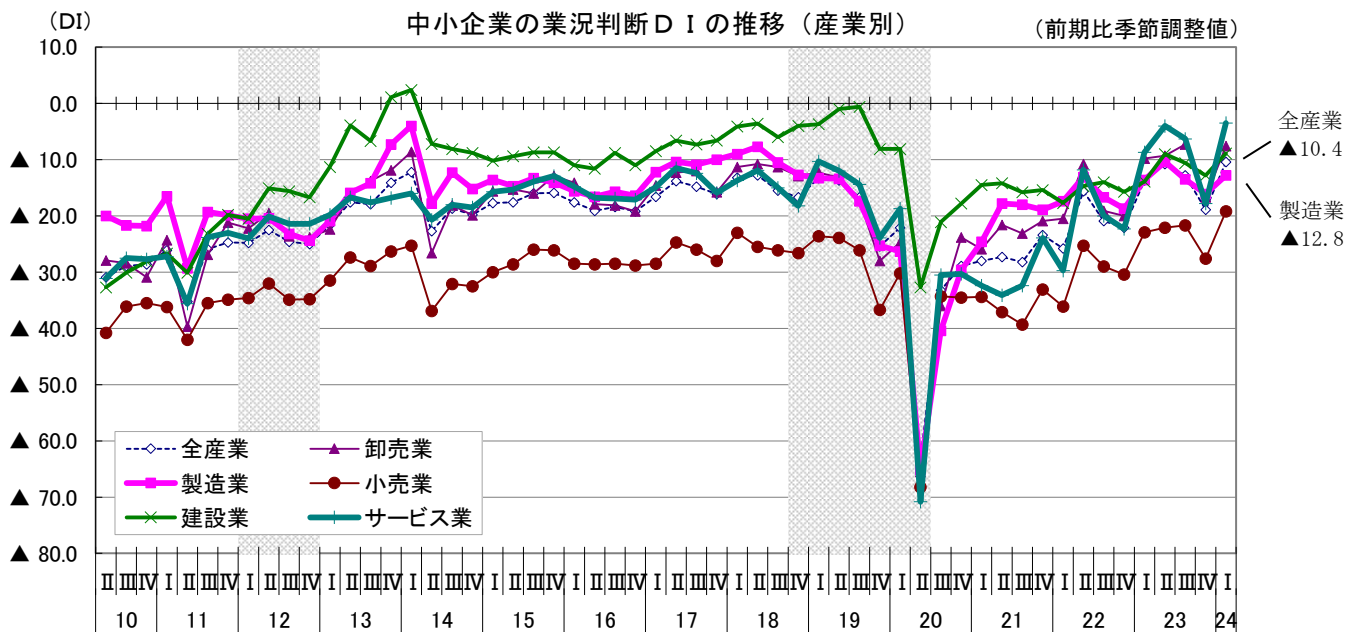
「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

独立行政法人中小企業基盤整備機構 広報・情報戦略統括室 総合情報戦略課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル
TEL: 03-5470-1521 (直通)

https://www.smrj.go.jp/research_case/survey/index.html

中小企業の業況判断DIは、3期ぶりに上昇した。

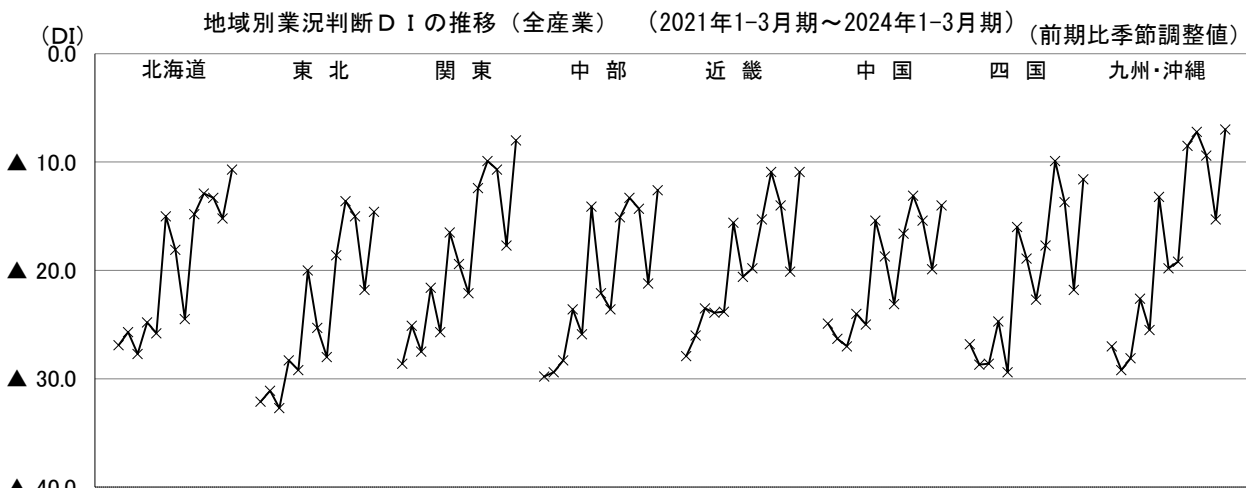
前期と比べて全産業の業況判断DIは、3期ぶりに上昇した。(▲18.9→▲10.4)



〈地域の業況〉

※網掛け部分は景気後退期

四国、関東、近畿、中部、九州・沖縄、東北、中国、北海道のすべての地域でマイナス幅が縮小した。



(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄の合計。

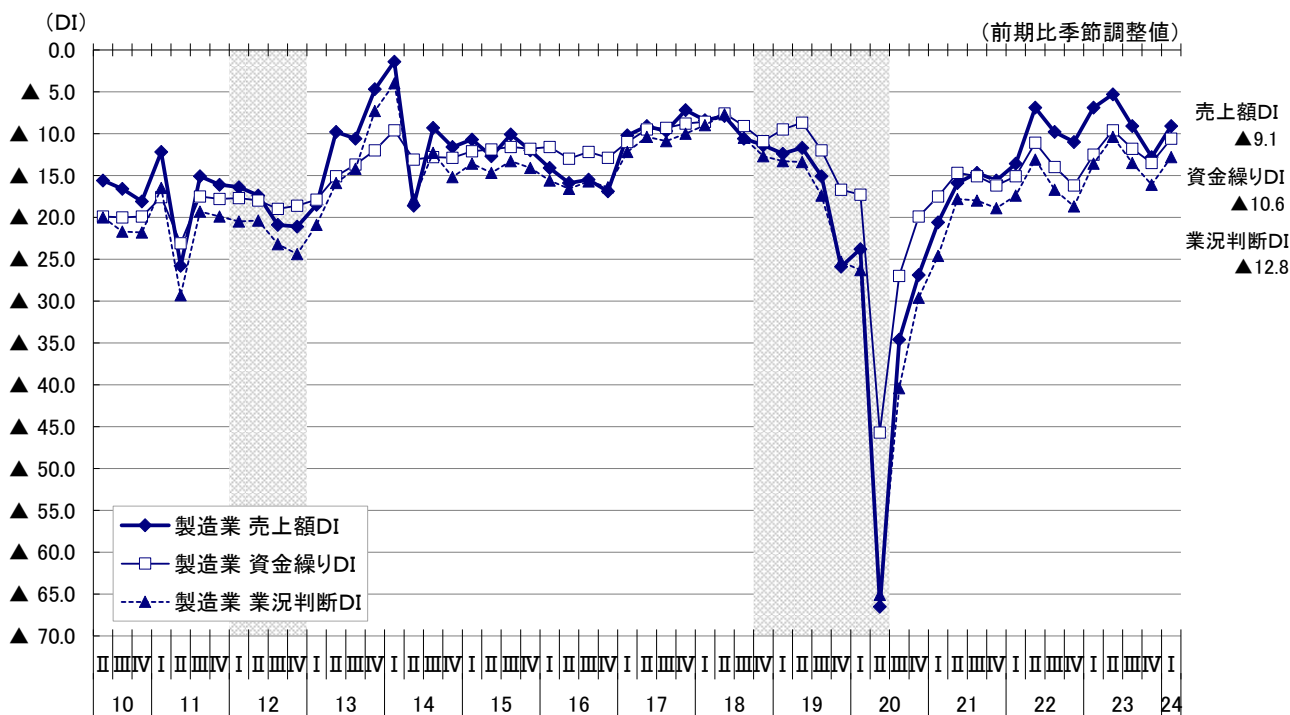
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合。

1. 製造業の動向

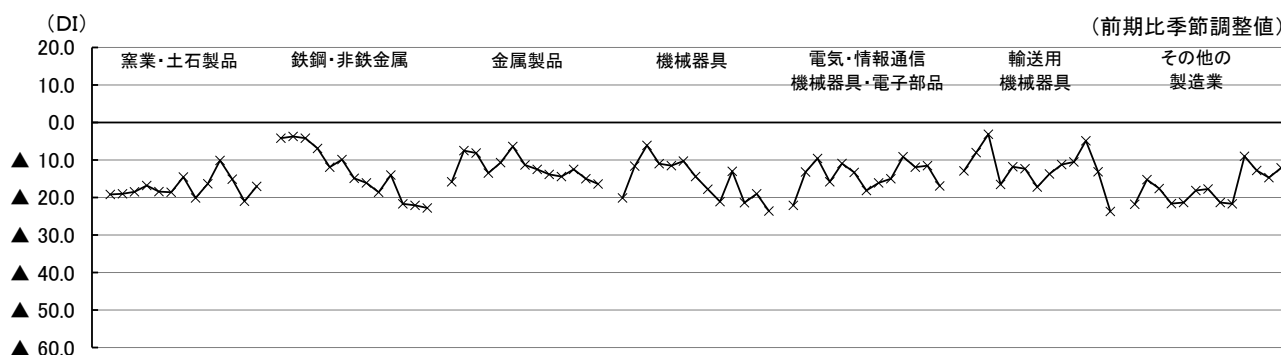
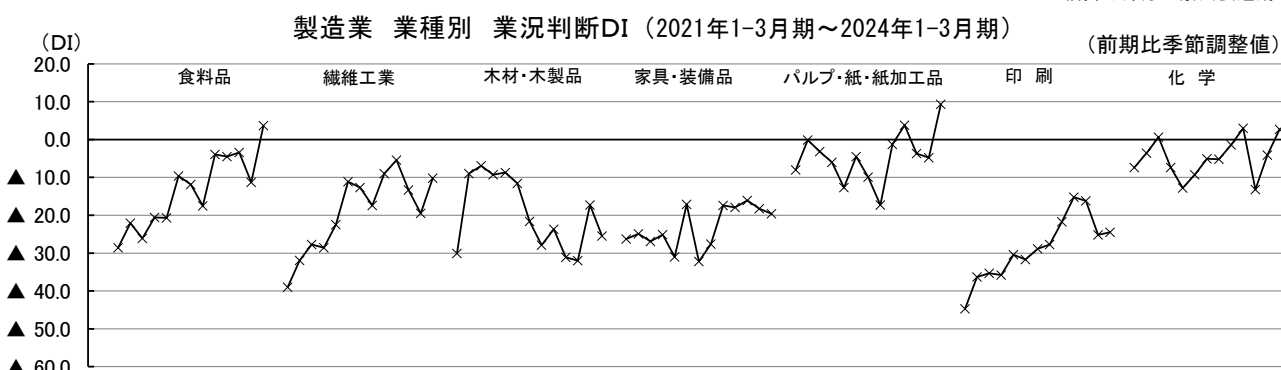
製造業の業況判断DIは、（前期▲16.1→）▲12.8（前期差3.3ポイント増）と3期ぶりにマイナス幅が縮小した。また、売上額DIは、▲9.1（前期差3.7ポイント増）、資金繰りDIは、▲10.6（前期差2.9ポイント増）といずれもマイナス幅が縮小した。

業況判断DIを14業種別に見ると、食料品で3.7（前期差15.0ポイント増）、パルプ・紙・紙加工品で9.3（前期差14.1ポイント増）、化学で2.7（前期差6.8ポイント増）と3業種でマイナスからプラスに転じ、繊維工業で▲10.2（前期差9.3ポイント増）、窯業・土石製品で▲17.0（前期差4.0ポイント増）など4業種でマイナス幅が縮小した。

一方、輸送用機械器具で▲23.7（前期差10.6ポイント減）、木材・木製品で▲25.5（前期差8.2ポイント減）、電気・情報通信機械器具・電子部品で▲16.9（前期差5.4ポイント減）など7業種でマイナス幅が拡大した。



※網掛け部分は景気後退期



2. 製造業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、製造業全体で20.1%（前期差2.4ポイント減）と減少した。

	食料品	繊維工業	木材・木製品	家具・装備品	パルプ・紙・紙加工品	印刷	化学	窯業・土石製品	鉄鋼・非鉄金属	金属製品	機械器具	電気・情報通信・電子部品	輸送用機械器具	その他の製造業	製造業計
2024年1-3月期	21.6	13.0	12.6	16.7	16.9	15.5	28.9	21.6	27.3	22.8	23.2	22.9	28.4	15.0	20.1
2023年10-12月期	23.6	18.3	14.5	14.9	22.5	16.1	32.5	24.8	32.2	25.1	26.0	27.7	26.6	18.7	22.5
2023年7-9月期	24.2	17.5	14.5	12.9	22.5	16.5	33.3	24.1	29.8	24.4	25.5	24.9	30.8	16.5	22.2
2023年4-6月期	22.1	16.1	12.8	14.6	24.3	17.9	27.5	20.3	22.0	24.8	23.3	24.4	31.9	17.9	21.1
2023年1-3月期	20.2	18.4	15.1	14.2	33.9	19.1	30.1	18.7	37.0	23.5	26.2	25.4	33.0	15.6	21.7

3. 製造業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「原材料価格の上昇」が1位にあげられており、「需要の停滞」が2位、「従業員の確保難」が3位となった。

（1位にあげた企業の割合）

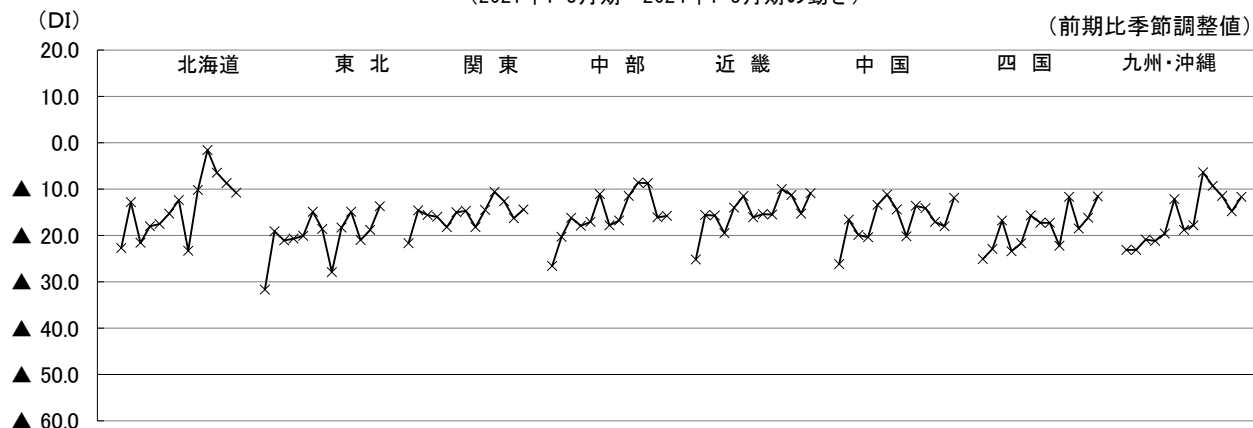
	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (1-3月期)	原材料価格の上昇 (27.9%)	需要の停滞 (19.4%)	従業員の確保難 (10.6%)	生産設備の不足・老朽化 (8.6%)	製品ニーズの変化への対応 (6.8%)
前期 (10-12月期)	原材料価格の上昇 (31.8%)	需要の停滞 (16.3%)	従業員の確保難 (9.9%)	生産設備の不足・老朽化 (9.3%)	製品ニーズの変化への対応 (6.2%)

4. 製造業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、中国、東北、四国、近畿、九州・沖縄、関東、中部でマイナス幅が縮小し、北海道でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移
製造業

（2021年1-3月期～2024年1-3月期の動き）

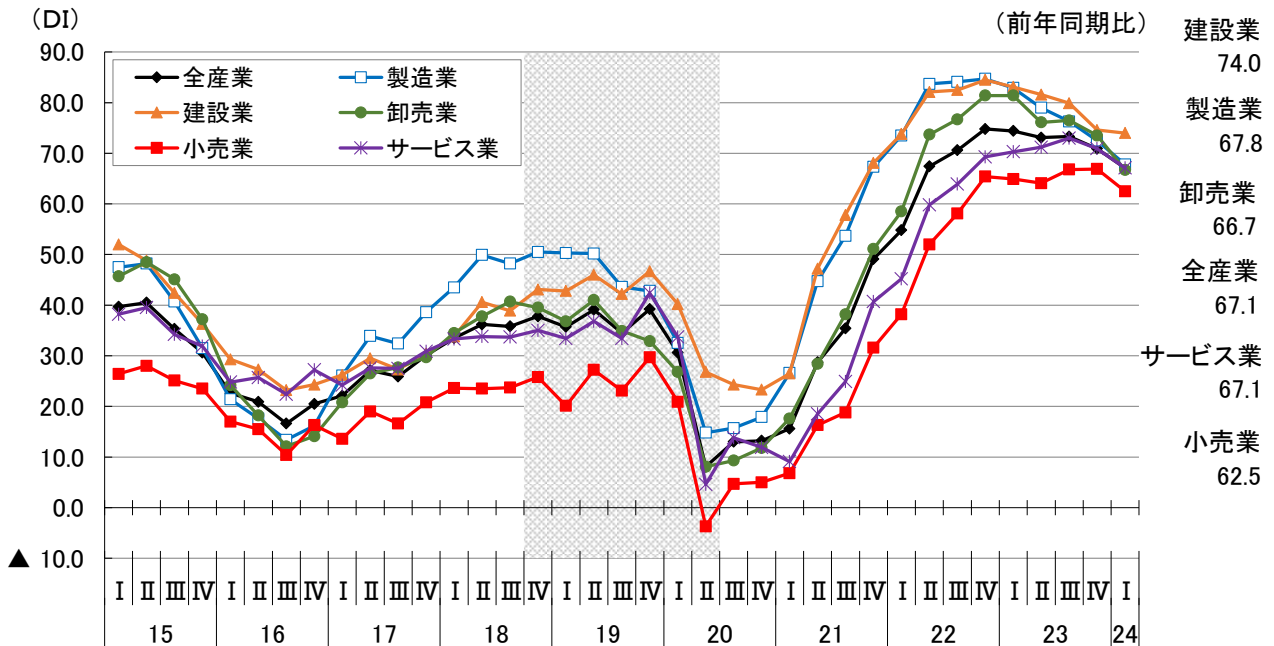


- (注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合。

5. 製造業の原材料・商品仕入単価D I（前年同期比）の推移について

原材料・商品仕入単価D I（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、（前期72.5→）67.8（前期差4.7ポイント減）と5期連続して低下した。

産業別原材料・商品仕入単価D Iの推移



【調査対象企業のコメント】

- ・ ここ数年の受注数増加に伴い、数か月前から積極的に人材獲得に力を入れてきました。今までの求人方法ではなく、SNSを駆使し、募集をかけたところ、今期より1名の採用が決まりました。[道北・オホーツク 金属製品]
- ・ 注文や引合いは増えていて、単価も悪くないが、手間のかかる仕事が多く、日程調整に苦慮する。[山形 家具・装備品]
- ・ 原料の価格高騰がいつまで続くのかが気になる。相場に左右されない調達が求められる。今回の地震の影響はなかったが、BCPの見直しが必要。[新潟 食料品]
- ・ 能登半島地震の影響で、1月の稼働日数が少なく、かなり痛かった。受注も不安定で、被災している取引先も数社あるので、元に戻るまでしばらくかかりそう。[石川 機械器具]
- ・ 半導体関連の需要は高いレベルにあるが、足元では一時的な減速傾向にある。半導体以外は、需要の停滞が大きく見られる。原材料価格の上昇が続いており、経営を圧迫している。今期は前年に比べ、厳しくなりそうだ。[滋賀 その他の製造業]
- ・ 厳しい状況の中、古い工場の修理、修繕をしたいが、経費の増加、売上の減少、先行きの不透明な状態の中では思い切ることにも不安である。我社ならではの製品の売り込みに力を入れることを考えているところ。[山口 木材・木製品]
- ・ 熟練技術者の離職後の補充が困難。従業員数自体は確保できているが、定着率も芳しくないため技術の継承ができない。[徳島 鉄鋼・非鉄金属]
- ・ 過去2年の反動からか、需要の伸びが大きい。しかし、生産が追い付かない状況。[沖縄 繊維工業]

【調査要領】

- (1) 調査時点：2024年3月1日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,832のうち有効回答数17,802（有効回答率94.5%）（産業別の動向は、製造業の有効回答数4,357を集計したもの。）